

猛
き
黄金の
国



【虎の瞳】

道
二
一

本宮ひろ志

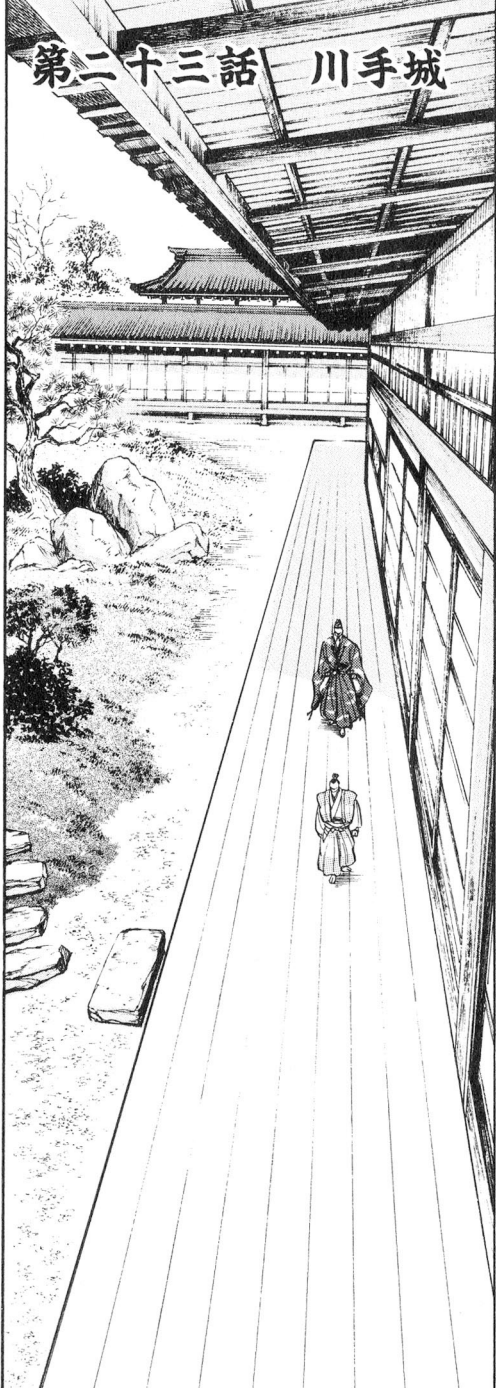


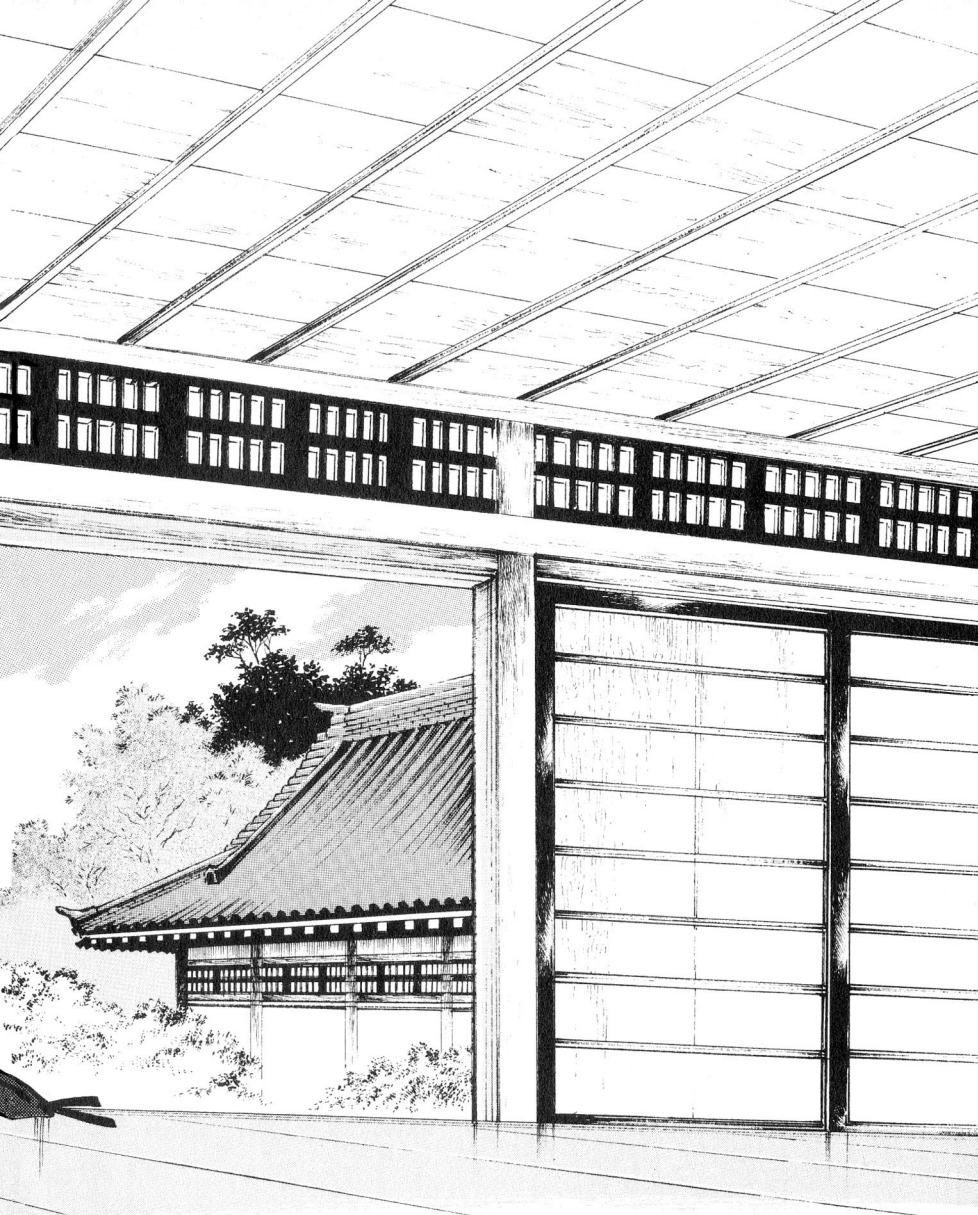
第二十三話 川手城



あれが
例の油屋か
思ったより
優男よ

それにしても
烏帽子に
直垂で
現われるとは





第二十三話 川手城





ははっ

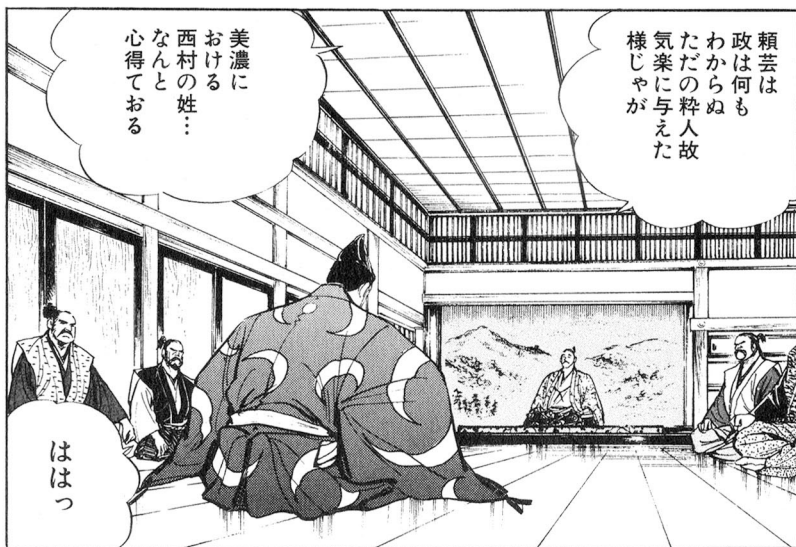
頼芸に
新しく西村姓を
受けたと申す
油屋は

……
その方か



美濃守護職様
にご拝謁いただき

身に余る
光栄と
存じ上げ
奉ります



頼芸は
政は何も
わからぬ
ただの粹人故
気楽に与えた
様じゃが

美濃に
おける
西村の姓……
なんと
心得ておる

ははっ



その重さは
十分に
心得て
おりまする

美濃を心より
愛おしく思う
生まれにて

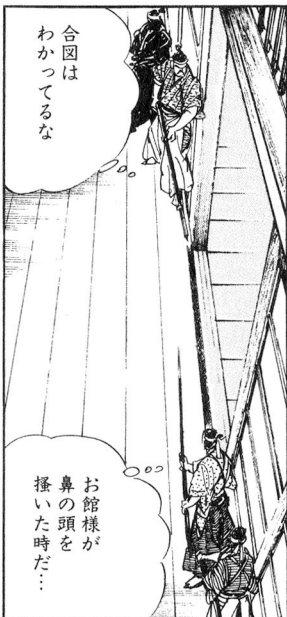


美濃の弱点は
お館様の
優しきお心に
ありまする

合図は
わかつてるな



お館様が
鼻の頭を
掻いた時だ…





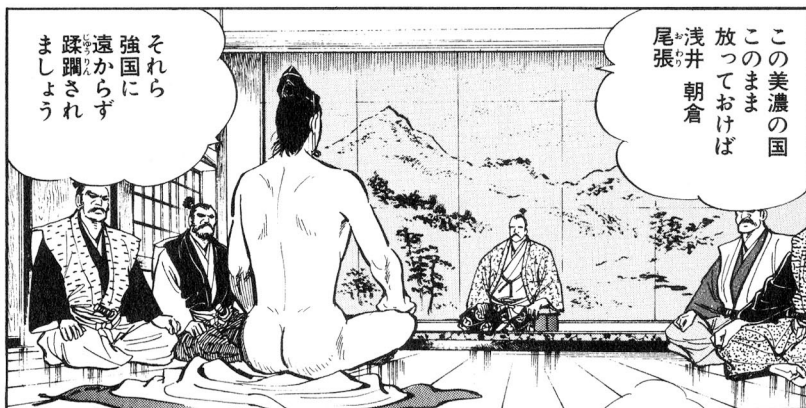


美濃の
守護職は
土岐政頼公……

そのお館様に
抱く疚しき心は
この通り一点も
ござり申さん



……
しかし



この美濃の国
このまま
放っておけば
浅井朝倉
尾張

それら
強国に
遠からず
蹂躪され
ましよう

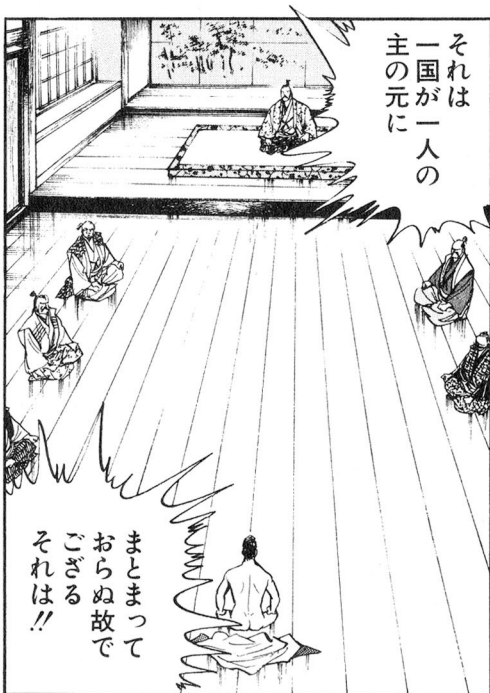


美濃と
他の強国との
差はどこに
あるか



ささま
あ~~~~

なに
~~~~



それは  
一国が一人の  
主の元に

まとまって  
おらぬ故で  
ござる  
それは!!



お館様の  
優しきお心が  
そうさせて  
おりまする



ええーい  
斬れ

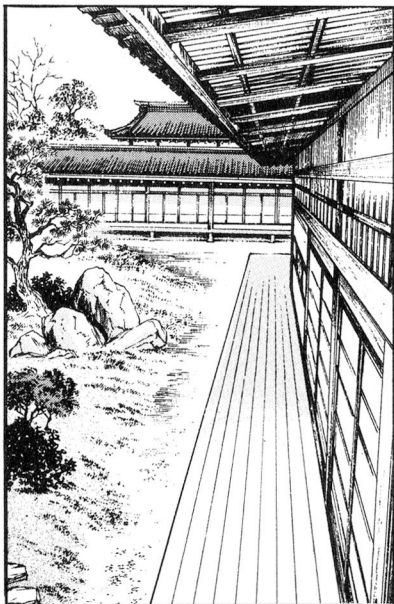
この  
いかがわしき  
油屋を  
ぶった斬れ













他国者の  
油屋がなぜに  
我が身を犠牲に  
してまで

この  
美濃の為に  
働こうとする



その様な  
女々しき心は  
さておき…

しかし…



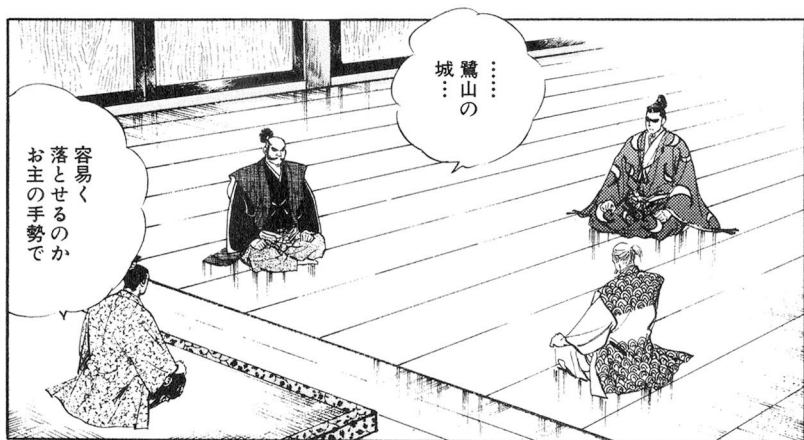
我が母は  
美濃の出

幼き頃より  
美濃の話を  
聞かされて育ち  
私の心の底には  
美濃への想いが  
育まりました

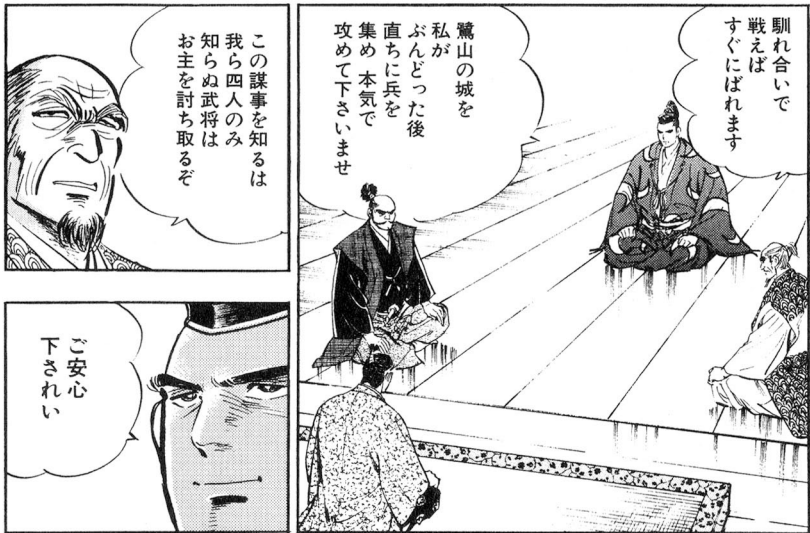


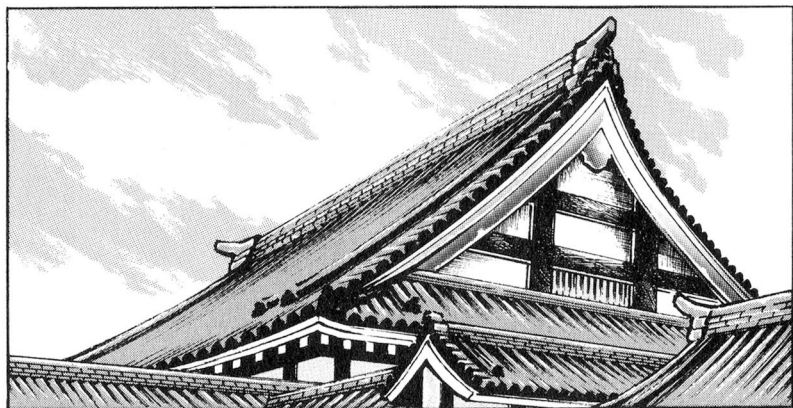
美濃は  
一刻の猶予もなく  
お館様をただ一人の  
主と仰ぎ

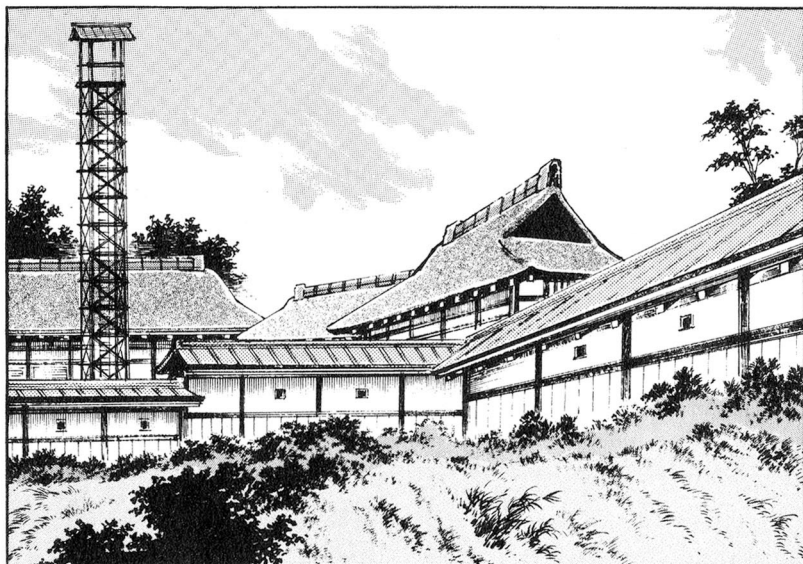
国をまじめ  
固めなければ  
他国のなぶりものに  
なり申す  
それ以外の大事は  
どこにもありません











はっ



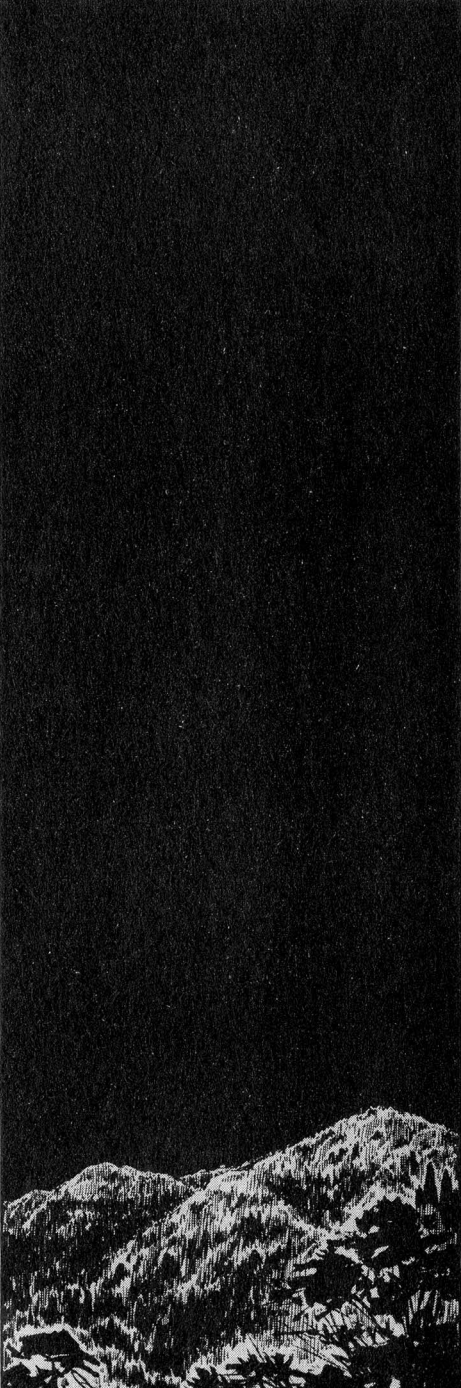
この  
美濃の  
止まっていた  
時を……

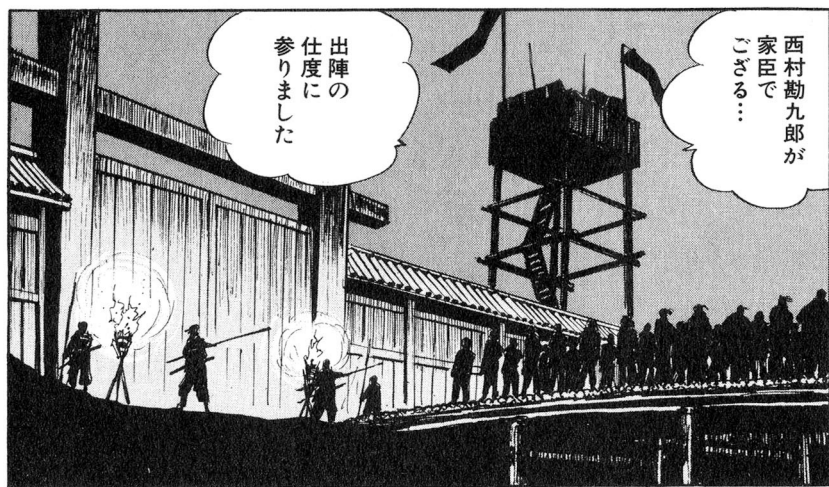
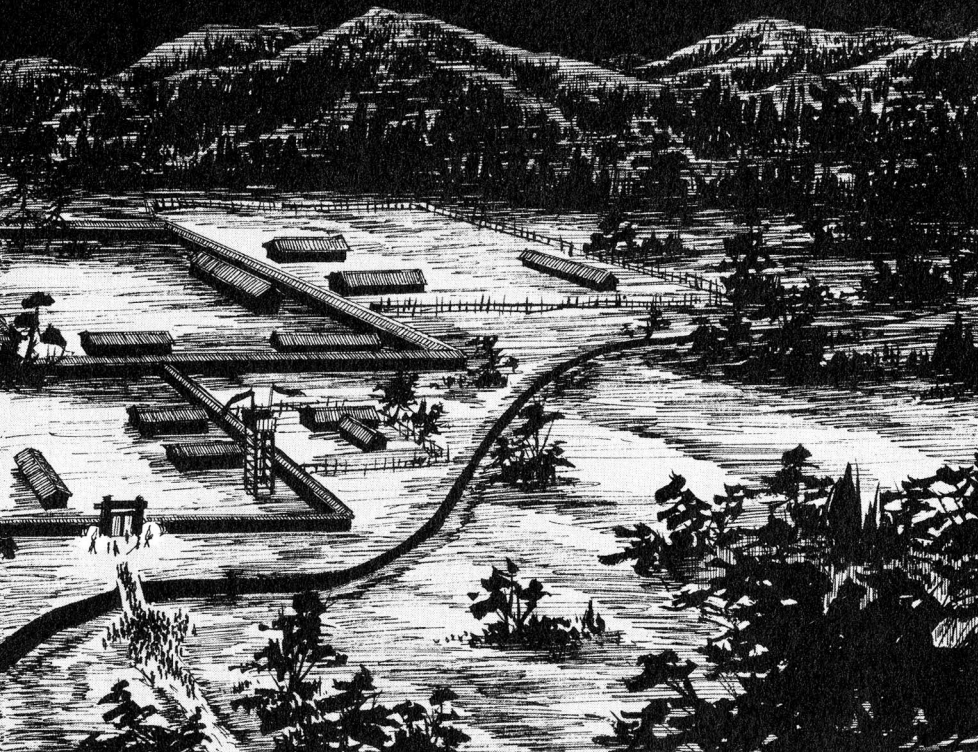
動かし  
ましたな  
……













何者だ



城門を  
お開け下され

総勢  
二百二十です

